

2016 年世界ジュニア・サブジュニア

パワーリフティング選手権大会

2016 年 8 月 29 ~ 9 月 3 日

ポーランド・シュチルク

報告：国士舘高等学校

パワーリフティング部顧問 **中谷幸市**

平成 28 年 9 月 13 日



今年の世界サブジュニア・ジュニアパワーリフティング選手権大会は、4 年前と同じくポーランド・シュチルク市で行われた。

今回の日本選手団は、大森 了さん（国際審判員）が団長、アームレスリングのレフェリーとしてテレビでお馴染みの三橋 凱選手のお父様三橋 信之さんが副団長、京都学園大学パワーリフティング部監督の三浦 重則先生、浦和学院高等学校の北村 唯先生、金光藤蔭高等学校の林 耕平先生に、私中谷で生徒・学生の引率をし、安全第一で全選手の大会成功、チームの団結を期して、8 月 27 日(土) 9 時 40 分成田を飛び立った。

（航空機はルフトハンザ 711 便、奇遇にも昨年と同じ便

である。）

尚、帯同審判として、大森 了さん、聖子さん夫妻に私の 3 名が主管であるポーランド PL 協会及びに IPF に協力責任を果たすべく兼任した。

選手はサブジュニア女子 4 名、男子 9 名で、ジュニア女子 7 名、男子 9 名の総勢 28 名である。

それに、JTB 添乗員の中村 裕子さん、サブジュニアの澤村さんのお母さん澤山 昌代さんを含め総勢 38 名の大選手団である。

我々指導者・引率者の願いは、渡航中の選手の安全と選手のベスト試技の達成のみである。

もし、図らずも事故が起きてしまえば大人の責任と認識し、徹底して生徒・学生の安全の配慮に努めなければならない。



13時間（フランクフルトで乗継）の長い飛行を終え、バスにて2時間後、これも4年前と同様のホテル Orle Gniazdo に着いた。（チェックインに時間が掛かり過ぎて、疲れ果てている選手団には、毎度閉口させられる。）

各自部屋に入れたのは、日付が変わりそうな時間であった。

8月29日(月) 大会初日

9:00 《オープニングセレモニー》

各国の役員・選手の代表がプラカードを持ち、軽快なBGMの中ステージに集まった。

日本からは、三橋副団長とジュニア男子堀口選手とサブジュニア男子榊原選手が胸を張って入場した。

特に三橋さんの堂々として存在感のある容姿に注目を集め、IPFの報道担当の被写体として即刻ホームページに載ったほどだ。（三橋さんは、その存在感から後々も各国の人たちの写真撮影依頼を受けていた。）

挨拶には、パウエルポーランドPL連盟パウエル会長、ガストンIPF会長からあり、会場大喝采の中、これからの熱戦を期待するかのような空気が漂い開会式は終了した。



第1セッション 《女子43kg級、47kg級のサブジュニア（以下SJr）とジュニア（以下Jr）》



日本人のトップバッターは、SJr43kg級 浜田 華澄選手（厚木商業高校）は、検量で最軽量の38.90kgであったが、USA、PHIとの三つ巴の戦いで自分の試技をしっかりと決め銅メダルを確保した。

SJr47kg級 菊地 雅選手（春日部共栄高校）は、RUS、USA、UKRを含む5ヶ国の中で、ベンチで金メダルとトータルの銀メダルを獲得した。これは大変立派である。

Jr47kg級には、昨年まで2年連続SJrに出場した植村 菜由選手（青山学院大学）が初のJrで6位入賞を果たした。（ただ、すべて第3試技を失敗しているので、第2試技の挙がり方から判断すると第3試技の重量は少しジャンプし過ぎていると感じた。）



メダルゲット、上から浜田、菊地、の各選手

第2セッション 《男子53kg級のSJrとJr》

SJr53kg級では、4月のデンマークの世界ベンチの覇者田村 陽選手（厚木商業高校）が昨年優勝者のリトアニアのValciukas選手にどこまで競っていけるかが鍵だったが、なんとValciukas選手がスクワット245kgを3本とも失敗し失格してしまった。

しかし、田村選手は気持ちを緩めるわけでもなく冷静な試合運びで、S190, B160.5(WS…world sub-junior record), D175, T525.5の優勝（各種目すべて金）で、4つ金メダルにSJrのベストリフターまで獲得した。『君が代』第1号で日本選手



いつもライバル優勝の新井選手と森脇選手

皆が大きな声で斉唱し、日本選手に幸先の良い
勇気と勢いが齎された。

4月の世界ベンチのレポートでも書いた
が、彼は K's 横浜で鍛え上げられた佐藤 優輝
先生のお弟子さんである。 Banquet の後、佐藤
先生から自分のことのように喜んでおられる内
容のメールが届いた。

Jr53kg級には今回2人の日本選手のための戦い
となった。(国内選考、大学選手権といつも競い
合っているらしい。) その2人の名は新井 一真
選手(東京農業大学)…昨年銀メダルと森脇 滉
人選手…昨年出場していない(岡山大学)である。

試合はスクワットで森脇選手が15kg上回る
185kgでスタートするものの、タイムオーバーで
失敗となり2本目にきっちり取ったが新井選手
が第3試技で追いつき、森脇選手が第3試技に
192.5kgに挑むが惜しくも失敗し、仲良く同重量。

ベンチも森脇選手が5kg上回る120kgでスター
トするが終わってみれば、2人とも125kgの同重
量。デッドでは逆に新井選手が10kg上回る180
kgでスタート、第2試技190第3試技195を確
実にとり、森脇選手が体重差の優勝をかけて第



優勝の田村選手、最優秀選手賞も獲得！

3 試技に 195kg に挑むが惜しくも失敗し、軍配はまたしても、新井選手に上がった。

ライバル同士仲が悪いのかと思うとそうでもなく、表彰式ではお互いに台の上でハグをするパホームンスをやり、観客席からの大喝采を浴びた。場内緊張の中に和やかな風が流れる実に微笑ましい光景であった。(可哀そうにホテルも同部屋らしい。(笑))

第 3 セッション 《女子 52 kg 級の SJr と Jr》

SJr52kg 級では、澤山 あおい選手（常総学院高校）がお母様昌代さんの熱い声援を受けて、スクワット銀、ベンチ銅、デッド銅、トータル銅メダルに輝いた。

お母様の話によると大学生になってもパワーは続ける意思が固いらしいので、これからも頑張っていたきたい。

Jr52kg 級では、昨年銀メダリスト NOR の Karen が優勝し、南 采沙選手 (TXP)、伊東 咲子選手（東京大学）がそれぞれ 2 位、3 位と続いた。

南選手は、昨年の悔しい失格があったが完全に復活して、メダル獲得に満面の笑みを見せてくれた。(昨年スクワットの第 3 試技が審判員が深さが足らないと失敗判定であったが、ある陪審員が「抗議に来てれば成功でもよかった。」と後で言いに来た。) …このジャッジについて(その後の男子重量級セッションで実際に判定が覆ったケースがあった。)不審に思い後で確認した例であるが、『明らかな審判員のミスジャッジならば陪審員において判定を覆す。』が『そこまでのレベルではない。』と判断したようだ。)

伊東選手は、スクワットの第 3 試技を失敗したが、後の 6 試技は完璧に成功する精度の高い落ち着いた試技をした。

18 : 00 ~ Anti Doping Seminar … All lifters must attend

今回初の試みで、すべてのリフター & コーチに約 1 時間講習会を行った。

映像を交え、大変有意義な講習会であった。(しかし、すべて英語だったので大変難しい！)



残念、デッドで失格、スクワットとベンチは銅のファルキ選手



8月30日(火)…大会2日目

第1セッション《男子59kg級のSJ rとJr》

SJ r 男子59kg級 ファルキ-アブドゥル-アズイーズ（浦和学院高校）は、スクワット、ベンチとも銅メダルに入るが、惜しくもデッドで失格してしまった。デッドの1本目は肩の返りが不十分と取られ、第3試技は、グリップの弱さを見られダウンのコールが遅く、主審のコール前にバーを下したと判断された。もう0.3秒コールが早ければ成功だったと思うと残念だ。

成功ならばトータルで3位に入れた。

Jr 男子59kg級 佐竹 優典選手（青山学院大学）は、昨年5位と初世界ジュニアの洗礼を受けたが、今回は試合前から調子が上がらない状態ではあったが、トータル620kgで2位に入れた。

優勝は台湾の Lin Yi-Chun がトータル657.5kg。

第2セッション《女子57kg級のSJ rとJr》

SJr 女子57kg級 来栖 彩選手（常総学院高等学校）は、昨年が7位入賞だったが、トータルで+45kgと1年間の成長を見せ4位と順位を上げた。

Jr 女子57kg級 小林 展代選手（TXP）は、昨年は来栖と同じSJ r 57kg級で5位だったが、今回からJrで9試技きっちり成功のトータルで+17.5kgで初のJrは8位入賞である。

ホームが安定し、重量申請から自分を冷静に判断した試技が印象的であった。

第3セッション《男子66kg級のSJrとJr》…TC 大森 了さん

SJr66kg級 浦川 和真選手（金光藤蔭高校）は、初出場で相当緊張していたようだが声を出し自らを奮い立たせ元気に試技をした。師匠の林先生もハラハラしながら見守り、ベンチで1本目主審の「スタート」コールの前に試技を始めたり、危うく失格しそうだったが、第3試技で完璧にとれた。本人のプロフィールを見ながらアナウンスをするスピーカーは「忍者リフター！頑張れ！」と声をかけ、場内の喝采を取っていた。結果は467.5kgで6位入賞。

優勝はUKRの Ruzimuradovs 選手で、ベンチ3本ともワールドレコードで185kgを達成、トータルは642.5kgであった。

Jr66kg級 木内 陽介選手（青山学院大学）は、スクワットとベンチで銀メダル、デッドで金メダルでトータル702.5kgで2位。

優勝は昨年同様、USAの Okpoko Charles 選手でトータルを7.5kg伸ばし735kgであった。



59kg、66kg級ジュニアの佐竹選手と木内選手はともにトータル2位にはいる

8 月 31 日(水)…大会 3 日目

第 1 セッション 《女子 63 kg 級の SJr と Jr》

Jr63kg 級 寺原 万留々選手（個人）は、スクワット 192.5kg で金メダルだったが、デッドの第 3 試技にトータルの銅メダルをかけて挑むが本調子ではないようで惜しいところで失敗し、昨年同様トータル 4 位に終わった。

同じく Jr63kg 級 堤 彩夏選手（京都学園大学）は寺原選手の後輩でスクワットが強く 175kg と健闘しトータル 6 位入賞を果たした。

寺原選手は毎年ジュニアを引っ張ってきたが、残念ながらこれで卒業である。

いつも三浦先生の手足となり率先して選手団を束ねた。大変お疲れ様でした！

つい先ほどプライベートなおめでたいニュースをお聞きした。大変おめでとうございます！ どうぞ未永くお幸せに！ そして、これからもパワーを頑張っていたきたいと思います。

第 2 セッション 《男子 74 kg 級の SJr と Jr》…TC 大森 了さん

SJr74kg 級 村上 翔太選手（浦和学院高校）は、ベンチ銀メダル、デッド銅メダルでトータル第 4 位と健闘した。

初出場の三橋 凱選手（伊勢学園高校）は、お父様自らセコンドに就き、気合いを入れた。

各種目第 3 試技は落としたもののよく頑張り、トータルは 515kg で 9 位となった。

まだ 2 年生なのでいい経験ができたはずだ。来年へと大きく成長してもらいたい！

Jr74kg 級 前川 知紀選手（京都学園大学）は、ベンチで 182.5kg の銅メダルを獲得し、トータルは 630kg で 9 位となった。

第 3 セッション 《男子 83 kg 級の SJr》…主審中谷、TC 大森聖子さん

SJr83kg 級 秋本 凌選手（春日部共栄高校）は、ベンチが調子よく 190kg で金メダル、トータルは 680kg で 5 位入賞。

斉藤 龍選手（浦和学院高校）は、スクワットの深さ・バランスに苦しみ、後がない第 3 試技に成功した。その後のベンチ、デッドも本来の調子ではなく、8 月の全日本高校よりトータルを 25kg も下げて 620kg の 7 位で終わって悔しい思いをした。

上位メダリストはカザフとウクライナ 2 人で、3 人ともトータル 700kg 台だった。

9 月 1 日(木)…大会 4 日目

第 1 セッション 《女子 72 kg 級の SJr と Jr》

SJr は出場選手はおらず、Jr72kg 級の窓場 加津紗選手（京都学園大学）は、いつもスクワットの強さに定評のある選手であるが、今回は体調が優れず、いつもの調子が出ないで第 7 位で終わった。調子が上向けばすごい記録を期待させる選手である。



写真左、来栖、小林選手、次は必ず表彰台に！

写真右、TC 大森審判員

ベンチで銅メダル、鈴木選手。



第2セッション《男子 83 kg級の Jr》

Jr83kg級 鈴木 善稀選手（小田原アリーナ）は、昨年は74kg級であったが、階級を上げ、記録も好調に伸ばしている。結果はUSAのTaylor選手と同記録782.5kgの体重差で銅メダルを逃し、第4位。しかし、ベンチは205kgで銅メダルを獲得した。

大森団長、奥様聖子さんは、本来地元の小田原アリーナで長年指導してきた鈴木選手のセコンドとしてこの大会に参加のはずだったが、諸般の事情で団長を引き受けられた。

最年長であるのに大変申し訳ないが、しっかりサポートする体制を言わずとも周りが取ることができたと思う。

また、この階級の選手で出

場しているLTUのPupins Pauliusさんは、レフェリー試験も受け合格している。

このように、ジュニアに関してはこういう事案も可能なので、日本選手もどんどん積極的に国際レフェリー資格に挑戦してもらいたい。

第3セッション《男子 93 kg級の SJr と Jr》

今年のSJr93kg級は、大変レベルが高く、上位4名までトータル700kgを超えた。

柿原 蓮選手（岡崎城西高校）は、緊張のせいかスクワットの1本目を失敗し調子に乗れず、悔しがった。トータルは8月全日本高校大会より17.5kg下げて560kgで第9位。

シルバ 英樹選手（国士舘高校）は、レベルが高いことは承知の上、少しでも上位を狙い、デッドのメダルを夢見た。しかし、初めての世界の舞台、スクワットの1本目215kgを緊張し今までにないようなバランスを崩し失敗した。セコンドの私は心の中で非常に焦ったが、「今までの練習を信じろ！」と自信を持たせるように言葉をかけ、第2の215kg、第3の225kgは嘘の



緊張の第一試技、シルバ選手

ように軽く成功した。

ベンチは粘りに粘って 140kg で自己ベストを 7.5kg 上回った。最後の夢をかけたデッド、これも緊張で力が入りすぎたのか 1 本目 245kg バランスを崩す、2 本目を確実にとり、3 本目 260kg に挑戦するが途中で止まってしまった。悔しい気持ちで顔を手で覆うが、「自己ベストを 17.5kg 更新は初の世界では立派だよ！」となだめた。

Jr93kg 級は、伊藤 壮志選手（北海学園大学）がよく頑張ったが、ベンチで 210kg を 3 回とも失敗してしまい失格となってしまった。真面目で周りによく気を遣ってくれる人柄で選手団役員から絶大な信頼を得た。来年は公務員を目指すとのことなので、ぜひ初志貫徹で頑張っていたきたい。

堀口 耀介選手（TXP）は、昨年 105kg 級で、3 本ともスクワットの深さを取られ失格した悔しさを克服し、スクワット 305kg、ベンチ 280.5kg（Wj…world junior record）の金メダル、デッド 255kg、トータル 840.5kg で優勝した。表彰式では、素晴らしい笑顔と『君が代』斉唱に感極まったように見受けられた。

9 月 2 日(金)…大会 5 日目

第 1 セッション《女子 84、+84 kg 級の SJr と Jr》…日本選手出場者なし

SJr84kg 級は、RUS の Minaeva 選手がトータル 480kg で 1 位と RUS の Nesterenko 選手がトータル 420kg で 2 位のワンツーフイニッシュ。

SJr + 84kg 級は、ここも USA の Hewitt 選手がトータル 603.5kg（WS）で 1 位と USA の Poisso 選手がトータル 520kg で 2 位のワンツーフイニッシュ。

Jr84kg 級は、NOR の Kielsen 選手がトータル 592.5kg で 1 位。RUS の Elovikova 選手がトータル 552.5kg で 2 位。

Jr + 84kg 級は、RUS の Pavlova 選手、KAZ の Okatenko 選手が共にトータル 562.5kg で体重差により Pavlova 選手が優勝、Okatenko 選手が 2 位。



ジュニア 93 kg 級、堀口選手見事優勝！！！！

佐野選手、試合前に大胸筋を痛め、悔しい5位。



第2セッション《男子105kg級のSJrとJr》 …副審大森 聖子さん、TC 中谷 幸市

日本選手出場者なし

SJr105kg級は、USA がワンツーフィニッシュ。1位は Peardot 選手がスクワット 335.5kg (WS) トータル 830.5kg。2位は Rushing 選手がトータル 752.5kg。

Jr105kg級は、1位が UKR の Rubets 選手でスクワット 416kg (W) トータル 991kg。

この選手は細く見えるが本当に強い！ 去年も活躍していたと記憶する。

2位は TPE の Yang 選手がトータル 952.5kg。クラシックでも活躍中の選手である。

3位も UKR の Kovalov 選手でトータル 947.5kg。1位から5位まで900kgを超えている凄いクラスだ。

9月3日(土)…大会6日目

第1セッション《男子120, + 120kg級のSJr》…日本選手出場者なし

SJr 120kg級は USA の Cook 選手と GBR の Johnson 選手の一騎打ちとなり、Cook 選手がスクワット 365.5kg (WS)、トータル 860.5kgで優勝。 Johnson 選手はトータル 845kgで2位。

SJr + 120kg級も USA 同士の戦いで Dille 選手が 825kgで優勝、Sanchez 選手が 812.5kgで2位となった。

第2セッション《男子120, + 120kg級のJr》

Jr 120kg級は佐野 哲建選手（京都学園大学）が出場したが、試合前から左側の大胸筋を痛めており、本来の調子が出なくて悔しい思いのトータル 780kgで5位だった。

優勝者は GER の Jaeger 選手で、昨年スクワットを3回深さを取られ失格し、今回も第1、第2と同じく深さが足らず失敗したが、最後の第3試技で 377.5kgを成功させ勢いに乗り、ベンチ 356kg (W) でトータル 1026kgだった。

Jaeger 選手は4月デンマークで世界ベンチの Jr120kg級のチャンピオンであり、今回、その時のオープン 120kg級の覇者兵庫の上田選手の世界記録 355kgを塗り替えてしまった。

続いて2位は USA の Burttschell 選手が 987.5kg、3位は ISL の Samuelsson 選手が 980.0kgで上位4名が900kg以上という凄い戦いとなった。

Jr + 120kg級は ISL の Johannsson 選手が 1080kgで優勝、UKR の Shevchenko 選手が 935kgで2位に入った。

20:00《Banquet》

団体戦は男子 SJr4位、女子 SJr4位、女子 Jr4位。

男子 Jr は、合計 51 点で、合計 50 点の UKR、USA を1点差でかわし初優勝！

まさに快挙である！

また、ベストリフター男子に SJr 田村 陽選手が1位に輝いた！

選手みんなは、おいしい料理と和やかな雰囲気、恒例のあこがれの各国の選手たちとの記念写真撮影で交流を深めた。

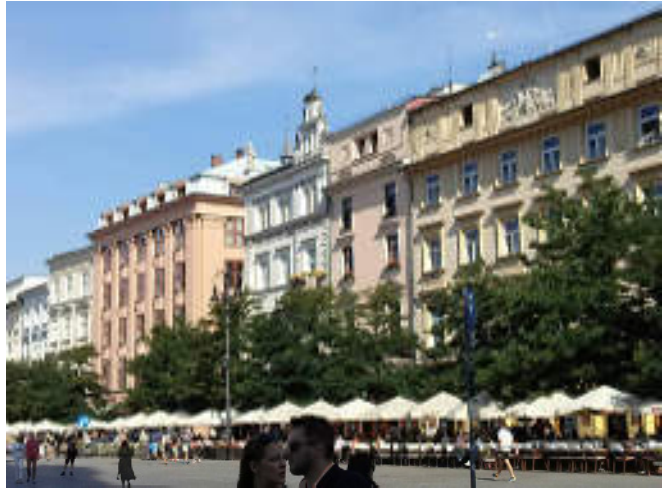


男子ジュニアは団体優勝、大森団長ご夫妻、ご苦労様でした。

9月4日(日)…観光（クラフク市街散策、アウシュビッツ強制収容所見学・研修）

4年前と同様に、クラフク市街の綺麗な街並み・雄大な建築物等に気分を高揚させながら散策し、それと真逆でずっしり重い気分させられる“負の世界遺産”アウシュビッツ強制収容所では、選手団のみんなが言葉も少なく真剣に考え学んだ。

その日のホテルは、今まで連泊したホテルとは全く違った綺麗で快適な部屋で、やっといい気分になれ、ぐっすりと眠れた。



9月5日(月)

各自最後の朝食を取り、チェックアウトの後の9時にバスにて、最後の買い物と空港に向かい出国手続きと、また長い飛行機の旅が始まった。

9月6日(火) 12:30 羽田空港着

飛行機を降り、入国審査後に日本チームの解団式を行い、大森団長、三橋副団長、三浦先生、中谷、ジュニア卒業の寺原、南、鈴木、堀口選手から挨拶の言葉があり、無事に本年の世界大会が終えられたことをみんなで喜んだ。

今回、私個人的に大変なことがあった。シルバが代表選考された時から、大会にはセコンドとして同行し、三浦先生のお手伝いと審判協力をするつもりでいたが、まったく予想もしなかったことが起きた。それは学校からの『引率不許可』を言い渡されたのだ。

一時は、シルバには事情説明して同行を断念し、JPA 国際委員会にも辞退の申し入れをした。



しかし、愛弟子のサポートをしてやらねばという一心で、学校には『休暇』を取って参加することにした。

また、10年もこの世界サブジュニア・ジュニア大会の団長をされてきた、京都学園大学の三浦先生も今回で JPA 国際委員会の世界サブジュニア・ジュニア大会担当を諸藩の事情でお辞めになられ、JPA の理事も辞任された。

私もたかが4回の世界サブジュニア・ジュニア大会に参加であるが、三浦先生のこの世界サブジュニア・ジュニア大会に懸ける情熱、生徒・学生に対する慈悲深い心、事故なく無事に帰国させることを第一にする責任感、どれをとっても真似できないほど素晴らしい団長業務の率先垂範をいつも目の当たりにしてきた。

来年以降、どなたが世界サブジュニア・ジュニア大会を引っ張って行かれるのだろうか？

未成年である生徒・学生たちに対する『安全配慮』

アウシュビッツ強制収容所、監視棟

『義務の徹底』を実行できる人でなければならない。

事故を未然に防ぎ、危機管理を計画的に、あらゆる角度からの対策を講ずることが必至である。

オープンやマスターズでも言うまでもなく危機管理の徹底が重要であるが、特にサブジュニア・ジュニアの選手団にはそれ以上の配慮が必要である。

私個人的には、三浦先生の辞任は、サブジュニア・ジュニアの国際大会の大損失であると考え、何とか撤回をしていただけないかと熱望するところである。

今まで三浦先生と共にしたサブジュニア・ジュニアの世界大会の卒業生や今回の選手たちを含め現役選手たち、三浦先生の辞任撤回に声をあげてもらえないだろうか！

三浦先生は、今までに共有時間確保のため、自分の職場環境を下げてまでサブジュニア・ジュニアの選手に対する情熱を捧げられてきた。

繰り返しになるが、私にはまったく真似ができない。

それほどまでの情熱に只々感服するとともに、大変尊敬させていただいている。

最後に大森団長、聖子さん、本当にお世話になりました。

言葉に尽くせないほど感謝の気持ちでいっぱいでございます。

いきなり降ってきた団長職、いやな顔一つせず、子供たちのために自分の子、孫のように接していただき、なん

と渡航期間中が和やで節度が保てたことでしょう！

大森団長を筆頭に役員一同、素晴らしい協力体制の布陣でほぼ事故もなく帰国の地にたどり着けたことは大変ありがたく存じます。

選手の皆さん、貴重な体験が満載の世界大会であったと思います。

皆さんの将来に絶大な経験が積まれたことと思います。

この素晴らしい大会に参加できた幸せを噛みしめるとともに、高額な遠征費を捻出させてもらった親御さん等に感謝の気持ちを忘れないようにしていただきたいと思います。

選手団全員で成し遂げた2016世界サブジュニア・ジュニアパワーリフティング選手権大会は私にとっても最高の大会でした！

皆様、本当にありがとうございました！



世界ジュニア&サブジュニア選手権大会結果(IPFホームページより)

男子Sub-Juniors

-53kg

1	Tamura Yo	1999	JPN	52,80	180,0	190,0	200,0	151,5-ws	160,5-ws	170,5	165,0	175,0	180,0	525,5
2	Chatman Trai	1998	USA	52,60	172,5	185,0	192,5	140,0	152,0-ws	157,5	172,5	180,0	185,0	515,0
3	Stankevich Albert	2002	BLR	52,50	130,0	140,0	145,0	60,0	70,0	72,5	100,0	120,0	125,0	335,0

-59kg

1	Garcia Marc	2000	USA	57,40	210,0	220,0	230,0	120,0	125,0	127,5	200,0	207,5	210,0	567,5
2	Nizamadinov Zhandarbek	1998	KAZ	58,60	215,0	222,5	232,5	120,0	125,0	127,5	195,0	195,0	195,0	545,0
3	Cypas Nojus	2000	LTU	58,60	130,0	145,0	152,5	80,0	87,5	92,5	190,0	205,0	212,5	437,5
4	Kavaliauskas Faustas	1998	LTU	58,70	140,0	150,0	160,0	110,0	120,0	122,5	140,0	155,0	177,5	415,0

-66kg

1	Ruzimuradov Ruslan	1998	UKR	65,70	220,0	230,0	240,0	171,0-ws	180,0-ws	185,0-ws	200,0	215,0	217,5	642,5
2	Gibbs Jakob	1999	USA	65,60	195,0	200,0	200,0	137,5	137,5	147,5	222,5	230,0	235,0	582,5
3	Binder Markus	1998	AUT	65,00	200,0	210,0	210,0	115,0	122,5	127,5	192,5	205,0	205,0	520,0
4	Parn Kermo	1998	EST	65,60	175,0	175,0	182,5	115,0	117,5	125,0	185,0	200,0	215,0	515,0
5	Kacinskas Lukas	2000	LTU	65,00	160,0	170,0	180,0	97,5	97,5	97,5	202,5	212,5	217,5	490,0
6	Urakawa Kazuma	1998	JPN	64,80	170,0	170,0	185,0	110,0	110,0	110,0	160,0	172,5	185,0	467,5
7	Sherwood Joe	1998	GBR	64,40	165,0	165,0	172,5	82,5	87,5	87,5	165,0	177,5	185,0	437,5

-74kg

1	Sherman Daniel	1998	GBR	72,90	235,0	245,0	252,5	135,0	142,5	150,0	230,0	245,0	250,0	640,0
2	Awlad Thani Al Khattab	1998	OMN	72,20	230,0	237,5	245,0	125,0	137,5	145,0	235,0	247,5	265,0	630,0
3	Manastyrskyi Andrii	1998	UKR	73,30	220,0	232,5	242,5	160,0	165,0	170,0	225,0	237,5	240,0	627,5
4	Murakami Shota	1998	JPN	73,20	200,0	210,0	220,0	160,0	160,0	167,5	200,0	215,0	225,0	602,5
5	El Mourad Rakan	1998	LIB	72,30	202,5	212,5	212,5	145,0	152,5	155,0	220,0	232,5	232,5	577,5
6	Konczak Hubert	1998	POL	72,80	215,0	227,5	227,5	117,5	127,5	132,5	210,0	210,0	232,5	570,0
7	Paczk Adam	1998	HUN	71,90	210,0	210,0	220,0	150,0	152,5	152,5	195,0	205,0	210,0	565,0
8	Karaliunas Ignas	1999	LTU	73,30	190,0	197,5	205,0	117,5	125,0	130,0	190,0	190,0	190,0	525,0
9	Mitsushashi Gai	2000	JPN	70,80	170,0	180,0	190,0	115,0	125,0	132,5	200,0	210,0	232,5	515,0

-83kg

1	Kotenyov Ilya	1998	KAZ	82,50	252,5	262,5	267,5	175,0	180,0	180,0	270,0	280,0	285,0	722,5
2	Bilyk Andriy	1998	UKR	81,90	270,0	285,0	295,0	175,0	185,0	190,0	245,0	250,0	250,0	720,0
3	Hladkyi Viktor	1998	UKR	82,10	235,0	247,5	255,0	175,0	182,5	182,5	250,0	262,5	285,0	700,0
4	Haase Hannes	1998	GER	81,50	260,0	272,5	285,0	167,5	172,5	175,0	220,0	235,0	240,0	695,0
5	Akimoto Ryo	1998	JPN	81,90	220,0	245,0	255,0	180,0	190,0	200,0	220,0	245,0	250,0	680,0
6	Sutkus Tautvydas	1998	LTU	82,60	230,0	245,0	252,5	160,0	170,0	180,0	240,0	260,0	260,0	662,5
7	Saito Ryu	1998	JPN	82,20	240,0	240,0	240,0	150,0	155,0	165,0	210,0	225,0	240,0	620,0
8	Zareba Jakub	1998	GBR	81,50	230,0	240,0	252,5	125,0	132,5	140,0	205,0	210,0	X	585,0
9	Kihu Mark	2000	EST	82,00	205,0	215,0	215,0	110,0	115,0	120,0	220,0	235,0	245,0	570,0
10	Janku Patrik	1998	CZE	82,20	215,0	222,5	222,5	137,5	145,0	150,0	180,0	190,0	205,0	557,5

-93kg

1	Kostov Bohdan	1998	UKR	90,20	260,0	270,0	277,5	170,0	177,5	182,5	280,0	290,0	302,5	737,5
2	Rogers Logan	1998	USA	91,80	245,0	255,0	265,0	175,0	175,0	177,5	280,0	290,0	297,5	722,5
3	Grupinski Wojciech	1999	POL	92,80	255,0	265,0	275,0	155,0	165,0	172,5	245,0	255,0	265,0	702,5
4	Nemec Jaroslav	1998	CZE	91,10	245,0	245,0	260,0	170,0	170,0	180,0	230,0	250,0	260,0	700,0
5	Awlad Thani Nabras	1998	OMN	89,20	242,5	245,0	245,0	135,0	150,0	155,0	240,0	250,0	265,0	665,0
6	Przybojewski Pawel	1999	POL	86,80	230,0	240,0	250,0	150,0	160,0	165,0	240,0	245,0	245,0	640,0
7	Da Silva Hideki	1999	JPN	84,90	215,0	215,0	225,0	130,0	135,0	140,0	245,0	245,0	260,0	610,0
8	Sakakibara Ren	1998	JPN	90,00	212,5	212,5	217,5	120,0	125,0	130,0	210,0	222,5	242,5	560,0

-105kg

1	Peardot Joshua	1998	USA	103,40	305,0	325,0	335,5-ws	182,5	190,0	200,0	265,0	285,0	295,0	830,5
2	Rushing Jonathan	1998	USA	101,40	295,0	315,0	335,5	150,0	162,5	170,0	257,5	275,0	290,0	752,5
3	Lang Marco	1998	AUT	103,50	242,5	255,0	267,5	147,5	157,5	157,5	237,5	247,5	250,0	660,0
4	Tworowski Mariusz	1998	POL	98,10	280,0	280,0	280,0	155,0	155,0	162,5	200,0	215,0	225,0	657,5
5	Collins Farris	1998	GBR	95,20	265,0	280,0	280,0	170,0	170,0	182,5	210,0	210,0	210,0	645,0
6	Cleja Andreas	1998	ROU	102,70	220,0	242,5	242,5	165,0	172,5	182,5	195,0	195,0	222,5	620,0
7	Portes Filip	2000	CZE	101,00	215,0	225,0	232,5	115,0	120,0	127,5	205,0	215,0	225,0	567,5
8	Novak Tomas	1999	CZE	99,70	230,0	250,0	250,0	135,0	150,0	150,0	160,0	180,0	190,0	565,0

-120kg

1	Cook Dylan	1998	USA	118,40	330,0	350,0	365,5-ws	192,5	202,5	210,0	275,0	285,0	285,0	860,5
2	Johnson Jack	1998	GBR	118,10	275,0	290,0	300,0	225,0	235,0	245,0	275,0	300,0	317,5	845,0
3	Goliney Viktor	2000	UKR	119,20	260,0	280,0	300,0	180,0	180,0	205,0	230,0	250,0	255,0	760,0
4	Lulinski Tomasz	1998	POL	116,20	190,0	205,0	212,5	150,0	160,0	165,0	220,0	240,0	250,0	622,5
5	Ruut Mihkel	1999	EST	106,90	225,0	235,0	245,0	145,0	177,5	182,5	220,0	220,0	250,0	610,0
6	Stepanek Roman	1998	CZE	106,60	185,0	195,0	205,0	102,5	110,0	117,5	185,0	205,0	215,0	537,5

120+kg

1	Dilley Declan	1998	USA	121,20	292,5	307,5	315,0	215,0	225,0	235,0	260,0	270,0	275,0	825,0
2	Sanchez Carlos	1998	USA	130,70	300,0	310,0	315,0	185,0	195,0	202,5	265,0	295,0	310,0	812,5
3	Sipos Erik	1998	SVK	145,60	245,0	252,5	255,0	160,0	167,5	172,5	220,0	232,5	247,5	660,0
4	Wozniak Andrzej	1998	POL	121,00	220,0	235,0	252,5	130,0	137,5	142,5	210,0	230,0	245,0	640,0
5	Orobets Ihor	2000	UKR	120,40	175,0	190,0	190,0	135,0	145,0	150,0	165,0	177,5	185,0	525,0

Nation (points)

1.	U.S.America	57	[12+12+12+12+9]	2472,40 w.pts	1	Tamura Yo	Japan
2.	Ukraine	49	[12+12+9+8+8]	2385,91 w.pts.	2	Ruzimuradov Ruslan	Ukraine
3.	Great Britain	34	[12+9+6+4+3]	2099,23 w.pts.	3	Garcia Marc	U.S.America
4.	Japan	34	[12+7+6+5+4]	2190,86 w.pts.			

Best Lifters of Subjuniors

Juniors**-53kg**

1	Arai Kazuma	1995	JPN	52,60	170,0	170,0	185,0	115,0	120,0	125,0	180,0	190,0	195,0	505,0
2	Moriwaki Hiroto	1995	JPN	52,10	185,0	185,0	192,5	120,0	125,0	130,0	170,0	180,0	195,0	490,0

-59kg

1	Lin Yi-Chun	1994	TPE	58,20	235,0	247,5	252,5	150,0	155,0	155,0	235,0	250,0	263,0	657,5
2	Satake Yusuke	1996	JPN	58,50	235,0	242,5	242,5	140,0	147,5	155,0	215,0	222,5	230,0	620,0
3	Ramirez Regie	1993	PHI	57,40	220,0	220,0	220,0	125,0	135,0	140,0	227,5	240,0	245,0	600,0
4	Leon Josue	1993	USA	58,50	210,0	217,5	217,5	122,5	122,5	130,0	240,0	250,0	255,0	597,5
5	Grimm Logan	1997	USA	58,40	230,0	242,5	252,5	117,5	122,5	127,5	210,0	220,0	232,5	590,0

-66kg

1	Okpoko Charles	1995	USA	65,30	272,5	287,5	292,5	180,0	185,0	190,0	240,0	252,5	257,5	735,0
2	Kiuchi Yosuke	1996	JPN	65,70	255,0	265,0	270,0	150,0	165,0	167,5	250,0	265,0	290,5	702,5
3	Kairzhan Ispandiyar	1997	KAZ	63,30	225,0	235,0	240,0	155,0	165,0	165,0	225,0	235,0	242,5	640,0
4	Perhac Adrian	1993	SVK	65,30	225,0	237,5	242,5	125,0	135,0	140,0	230,0	237,5	260,0	620,0
5	More Jan	1993	CZE	64,30	205,0	220,0	220,0	145,0	150,0	150,0	215,0	225,0	237,5	575,0
6	Somodi Vince	1995	HUN	63,80	205,0	212,5	222,5	105,0	105,0	137,5	215,0	225,0	225,0	552,5
7	Moise Gheorghe	1995	ROU	63,90	215,0	227,5	237,5	132,5	145,0	150,0	190,0	197,5	X	550,0

-74kg

1	Lehew Stephen	1995	USA	73,40	285,0	295,0	300,0	210,0	217,5	225,0	295,0	295,0	295,0	815,0
2	Maher Alexis	1995	USA	73,20	270,0	282,5	282,5	150,0	160,0	165,0	302,5	302,5	315,0	750,0
3	Milla Marius	1993	GER	73,30	260,0	272,5	282,5	160,0	167,5	172,5	272,5	287,5	295,0	740,0
4	Sukhorutchenko Mykyta	1995	UKR	73,50	280,0	290,0	300,0	182,5	182,5	190,0	250,0	250,0	262,5	740,0
5	Chorny Vladislav	1997	UKR	72,80	260,0	280,0	290,0	150,0	157,5	162,5	245,0	260,0	260,0	682,5
6	Cingi Eray	1993	NED	73,50	237,5	250,0	255,0	150,0	155,0	160,0	230,0	245,0	255,0	665,0
7	Pribilik Ladislav	1993	CZE	74,00	237,5	245,0	255,0	165,0	172,5	172,5	235,0	245,0	245,0	662,5
8	De Lacey Harry	1993	NZL	72,80	230,0	245,0	255,0	132,5	135,0	140,0	265,0	275,0	280,0	660,0
9	Maegawa Tomoki	1994	JPN	73,10	225,0	235,0	237,5	175,0	182,5	190,0	190,0	210,0	225,0	630,0

-83kg

1	Lebediev Oleksandr	1994	UKR	82,40	320,0	330,0	340,0	230,0	240,0	250,0	280,0	290,0	297,5	887,5 -cj
2	Musiienko Kostiantyn	1997	UKR	82,50	302,5	302,5	312,5	237,5	250,0	260,5	262,5	262,5	262,5	815,0
3	Taylor Raynard	1997	USA	81,00	292,5	305,0	315,0	185,0	190,0	190,0	275,0	292,5	295,0	782,5
4	Suzuki Yoshiki	1993	JPN	82,80	295,0	305,0	310,0	192,5	205,0	205,0	265,0	282,5	290,0	782,5
5	Schnurr Julian	1994	GER	82,90	275,0	290,0	300,0	182,5	190,0	195,0	277,5	287,5	295,0	767,5
6	Beilmann Viktor	1997	GER	82,30	285,0	295,0	300,0	185,0	185,0	192,5	250,0	260,0	260,0	745,0
7	Pupinis Paulius	1994	LTU	78,70	250,0	265,0	270,0	180,0	192,5	205,0	240,0	260,0	292,5	722,5
8	Strang Ryan	1994	GBR	82,40	260,0	270,0	270,0	172,5	182,5	192,5	230,0	242,5	252,5	695,0
9	Olsen Nickolaj	1994	DEN	80,50	247,5	260,0	267,5	130,0	135,0	140,0	245,0	260,0	262,5	670,0
10	Dahl Mickel	1996	DEN	82,90	257,5	265,0	270,0	142,5	150,0	152,5	262,5	270,0	270,0	670,0
11	Bhogal Mehar	1996	CAN	82,00	215,0	225,0	225,0	145,0	155,0	160,0	215,0	227,5	245,0	612,5
12	Karner Margus	1993	EST	81,30	190,0	205,0	215,0	135,0	142,5	147,5	190,0	190,0	207,5	570,0

-93kg

1	Horiguchi Yosuke	1993	JPN	92,50	285,0	305,0	315,0	270,0	280,5-wj	300,5	240,0	255,0	267,5	840,5
2	Dahlkvist Oliver	1995	SWE	91,40	295,0	295,0	307,5	205,0	210,0	212,5	260,0	270,0	275,0	795,0
3	Slettnes Nikolai	1994	NOR	86,10	297,5	305,0	310,0	207,5	212,5	217,5	255,0	265,0	275,0	792,5
4	Afzal Benjamin	1994	NOR	87,50	305,0	305,0	312,5	210,0	215,0	215,0	260,0	270,0	270,0	787,5
5	Graaf Franz	1996	GER	92,70	290,0	297,5	305,0	210,0	210,0	215,0	230,0	250,0	X	762,5
6	Schutan Maxim	1994	GER	92,80	290,0	290,0	310,0	195,0	205,0	217,5	237,5	252,5	252,5	745,0
7	Malevskis Klaudijus	1996	LTU	84,80	255,0	265,0	272,5	212,5	217,5	217,5	240,0	250,0	257,5	740,0
8	Ducky Markus	1997	SVK	86,50	260,0	270,0	285,0	150,0	165,0	172,5	230,0	245,0	245,0	687,5
9	Swierczynski Adrian	1996	POL	91,80	210,0	220,0	235,0	170,0	195,0	195,0	262,5	272,5	277,5	682,5
10	Hinterregger Martin	1996	AUT	92,70	250,0	260,0	267,5	170,0	170,0	180,0	220,0	230,0	245,0	682,5
11	Cazacu Alexandru	1997	ROU	91,90	240,0	262,5	272,5	155,0	165,0	172,5	200,0	220,0	230,0	632,5
12	Campbell Travis	1993	CAN	90,30	215,0	215,0	225,0	145,0	155,0	155,0	225,0	237,5	245,0	615,0
—	Ito Soshi	1995	JPN	92,70	250,0	250,0	260,0	210,0	210,0	210,0	210,0	230,0	240,0	DSQ

-105kg

1	Rubets Oleksandr	1996	UKR	98,30	390,0	401,5-wj	416,0-w	250,0	257,5	260,0	300,0	317,5	330,0	991,0
2	Yang Sen	1994	TPE	103,70	385,0	395,0	402,0	250,0	257,5	260,0	290,0	290,0	297,5	952,5
3	Kovalov Danylo	1996	UKR	103,80	370,0	370,0	370,0	250,0	250,0	260,0	300,0	310,0	317,5	947,5
4	Fountain Mitchell	1996	USA	100,70	350,0	365,0	370,0	217,5	227,5	235,0	322,5	337,5	362,5	922,5
5	Riekstins Marks	1993	LAT	102,80	320,0	330,0	337,5	270,0	280,0	280,0	285,0	295,0	295,0	902,5
6	Leitow Tim	1994	GER	99,70	300,0	315,0	327,5	210,0	217,5	230,0	285,0	305,0	315,0	872,5
7	Powell Tery	1993	USA	102,90	305,0	325,0	332,5	220,0	220,0	230,0	305,0	315,0	320,0	867,5
8	Durani Abdul Tawab	1993	GER	103,80	325,0	325,0	325,0	242,5	252,5	257,5	275,0	292,5	307,5	860,0
9	Peeters Alan	1994	BEL	103,40	320,0	335,0	345,0	160,0	210,0	217,5	295,0	295,0	317,5	857,5
10	Barber Steven	1993	GBR	102,00	250,0	260,0	267,5	152,5	160,0	160,0	255,0	265,0	275,0	695,0

-120kg

1	Jaeger Kevin	1995	GER	120,00	367,5	372,5	377,5	330,0	337,5-w	356,0-w	270,0	280,0	292,5	1026,0
2	Burttschell Jesse	1993	USA	119,30	355,0	367,5	375,0	282,5	292,5	292,5	300,0	315,0	327,5	987,5
3	Samuelsson Viktor	1993	ISL	119,70	350,0	360,0	370,0	295,0	302,5	310,0	305,0	317,5	330,0	980,0
4	Arseniuk Mykola	1993	UKR	115,20	360,0	360,0	372,5	245,0	255,0	260,0	287,5	305,0	310,0	937,5
5	Sano Seiken	1995	JPN	111,40	295,0	295,0	315,0	210,0	210,0	210,0	275,0	295,0	295,0	780,0
6	Harvey Sam	1993	GBR	118,80	265,0	277,5	282,5	180,0	190,0	195,0	240,0	252,5	260,0	720,0
7	Turus Dan	1996	ROU	116,30	260,0	267,5	267,5	170,0	180,0	185,0	200,0	200,0	200,0	652,5
8	Roller Matej	1995	CZE	107,90	235,0	245,0	250,0	145,0	150,0	150,0	230,0	240,0	X	625,0

120+kg

1	Johannsson Julian J.K.	1993	ISL	160,60	375,0	400,0	400,0	290,0	300,0	310,0	332,5	370,0	370,0	1080,0
---	------------------------	------	-----	--------	-------	------------------	-------	-------	-------	-------	-------	------------------	-------	--------

2	Shevchenko Andrii	1995	UKR	126,10	360,0	370,0	382,5	240,0	250,0	262,5	270,0	280,0	290,0	935,0
3	Gudmundsson Thorbergur	1993	ISL	148,40	325,0	340,0	340,0	240,0	250,0	262,5	300,0	320,0	320,0	887,5
4	Schnegg Martin	1994	AUT	125,50	280,0	297,5	312,5	192,5	207,5	215,0	262,5	262,5	265,0	792,5
5	Ordean Daniel	1995	ROU	127,80	290,0	315,0	325,0	200,0	210,0	217,5	240,0	240,0	257,5	792,5
6	Lieberknecht Nick	1994	GER	120,10	302,5	302,5	302,5	185,0	200,0	215,0	240,0	260,0	260,0	742,5
7	Kulik Damian	1995	POL	124,00	220,0	250,0	260,0	160,0	175,0	190,0	200,0	220,0	230,0	665,0

Nation (points)

1.	Japan	51	[12+12+9+9+9]	2593,81 w.pts.
2.	Ukraine	50	[12+12+9+9+8]	2848,66 w.pts.
3.	U.S.America	50	[12+12+9+9+8]	2814,17 w.pts.
4.	Germany	37	[12+8+6+6+5]	2649,82 w.pts.
5.	Iceland	28	[12+8+8]	1647,29 w.pts.
6.	Chinese Taipei	21	[12+9]	1148,52 w.pts.

Best Lifters of Juniors

Rnk	Lifter	Nation
1	Rubets Oleksandr	Ukraine
2	Lebediev Oleksandr	Ukraine
3	Johannsson Julian J.K.	Iceland

女子の部

Sub-Juniors

-43kg

1	Becerril Janet	1999	USA	41,80	115,0	125,0	132,5	55,0	60,0	65,0	110,0	120,0	127,5	325,0
2	Masangkay Joan	1998	PHI	41,50	100,0	110,0	115,0	55,0	55,0	60,0	112,5	120,0	120,0	282,5
3	Hamada Kasumi	2000	JPN	38,90	90,0	95,0	95,0	45,0	52,5	60,0	85,0	95,0	100,0	242,5

-47kg

1	Cherviakova Anastasii	1999	RUS	46,70	137,5	147,5	155,0	65,0	70,0	72,5	115,0	122,5	130,0	350,0
2	Kikuchi Miyabi	1998	JPN	46,50	125,0	132,5	132,5	75,0	80,0	82,5	120,0	125,0	127,5	337,5
3	Lavoy Stephanie	1999	USA	46,60	127,5	132,5	137,5	57,5	65,0	70,0	127,5	137,5	152,5	335,0
4	Abrea Andrea Rowella	1999	PHI	46,60	110,0	120,0	127,5	57,5	65,0	67,5	110,0	117,5	127,5	305,0
5	Kyiakh Anhelina	2002	UKR	46,30	90,0	100,0	107,5	47,5	52,5	57,5	75,0	85,0	X	235,0

-52kg

1	LaChapelle Taylor	1999	USA	51,50	160,0	170,0	177,5	82,5	90,0	92,5	140,0	147,5	150,0	417,5
2	Karimova Dilyra	1998	KAZ	51,80	140,0	150,0	157,5	85,0	92,5	95,0	142,5	142,5	150,0	395,0
3	Sawayama Aoi	1998	JPN	50,70	145,0	152,5	157,5	72,5	75,0	85,0	125,0	135,0	140,0	372,5
4	Shlykovich Krystsina	1998	BLR	51,50	120,0	125,0	125,0	60,0	62,5	65,0	125,0	125,0	X	307,5

-57kg

1	Kolesnik Daniela	1999	RUS	56,51	160,0	170,0	175,0	120,0	127,5	127,5	160,0	170,0	175,0	472,5 -cs
2	Lazebna Daria	1998	UKR	56,00	160,0	167,5	172,5	105,0	105,0	110,0	140,0	150,0	160,0	427,5
3	Montes Alana	1998	USA	56,20	140,0	145,0	150,0	80,0	82,5	85,0	152,5	160,0	170,0	390,0
4	Kurusu Aya	1998	JPN	54,90	120,0	130,0	130,0	70,0	80,0	80,0	120,0	130,0	142,5	330,0
5	Lis Ida	2000	POL	56,70	105,0	112,5	115,0	52,5	57,5	60,0	125,0	135,0	152,5	307,5
6	Reich Cheyenne	1998	AUT	55,40	100,0	110,0	110,0	57,5	62,5	65,0	100,0	110,0	120,0	272,5

-63kg

1	Krueger Sonja-Stefani	1999	GER	62,20	215,0	215,0	225,5	128,0	128,0	137,5	160,0	170,0	170,0	503,0 -ws
2	Panton Jordanne	1999	USA	61,30	172,5	182,5	187,5	87,5	90,0	92,5	177,5	177,5	193,5	468,5
3	Harhunovska Nataliia	1998	UKR	60,40	187,5	187,5	190,0	97,5	97,5	102,5	145,0	155,0	167,5	447,5
4	Vakhrameeva Daria	2000	RUS	59,80	160,0	167,5	175,0	110,0	115,5	122,5	130,0	140,0	145,0	428,0
5	Malcherek Magdalena	1998	POL	62,50	150,0	160,0	172,5	85,0	90,0	92,5	135,0	145,0	155,0	397,5
6	Rusanenko Daria	2001	UKR	58,90	160,0	170,0	180,0	82,5	87,5	87,5	132,5	140,0	140,0	395,0
7	Reich Dakota	1998	AUT	59,70	130,0	140,0	147,5	70,0	77,5	80,0	162,5	170,0	177,5	387,5
8	Derevianko Anastasiia	1998	RUS	62,20	145,0	152,5	152,5	85,0	90,0	92,5	140,0	147,5	150,0	382,5
9	Obrslikova Kristyna	1998	CZE	61,50	135,0	145,0	152,5	75,0	80,0	85,0	120,0	135,0	145,0	372,5

-72kg

1	Atamanova Irina	1998	RUS	65,20	170,0	180,0	185,0	105,0	107,5	112,5	150,0	160,0	162,5	460,0
2	Kierstyn Amber	1998	USA	70,90	160,0	170,0	175,0	85,0	90,0	92,5	160,0	167,5	177,5	445,0
3	Krasnova Ruslana	2000	UKR	65,70	160,0	170,0	175,0	100,0	105,0	107,5	150,0	160,0	165,0	442,5
4	Soltyszevska Sandra	1999	POL	64,20	100,0	110,0	117,5	50,0	55,0	57,5	115,0	127,5	135,0	300,0

-84kg

1	Minaeva Anastasiia	1998	RUS	83,00	180,0	192,5	202,5	107,5	112,5	117,5	150,0	160,0	160,0	480,0
2	Nesterenko Olesia	2001	RUS	72,10	160,0	165,0	170,0	97,5	102,5	105,0	135,0	140,0	145,0	420,0
3	Butautaitė Gabriele	1998	LTU	73,50	142,5	150,0	155,0	85,0	85,0	95,0	140,0	152,5	162,5	402,5
4	Rumanova Deborah	1999	CZE	75,20	140,0	147,5	155,0	75,0	75,0	75,0	125,0	137,5	137,5	355,0
—	Pinionzh Kateryna	1998	UKR	74,60	130,0	142,5	152,5	80,0	80,0	80,0	105,0	115,0	125,0	DSQ

84+kg

1	Hewitt LeeAnn	1999	USA	150,10	237,5	237,5	248,5	105,0	125,0	140,0	210,0	230,0	240,0	603,5 -ws
2	Poisso Lily	1998	USA	129,70	175,0	175,0	195,0	97,5	110,0	122,5	175,0	190,0	202,5	520,0
3	Efimtseva Daria	2000	RUS	108,90	185,0	200,0	210,0	125,0	135,0	142,5	140,0	155,0	165,0	517,5

Nation (points)

Best Lifters of Subjuniors

				Best Lifters or Subjuniors		
				Rnk	Lifter	Nation
1.	Russia	57	[12+12+12+12+9]	2346,59 w.pt.		
2.	U.S.America	54	[12+12+12+9+9]	2414,33 w.pts.	1	Kolesnik Daniela Russia

3. Ukraine	36	[9+8+8+6+5]	2226,12 w.pts.	2	Krieger Sirja-Dafara	Germany
4. Japan	32	[9+8+8+7]	1687,45 w.pts.	3	LaChapelle Taylor	U.S.America
5. Poland	19	[7+6+6]	1105,44 w.pts.			
6. Philippines	16	[9+7]	825,66 w.pts.			

Juniors

-43kg

1 Rattunde Stephanie	1997	USA	42,80	115,0	117,5	122,5	65,0	70,0	75,0	120,0	127,5	130,0	322,5
2 Kirillova Polina	1997	RUS	42,30	105,0	115,0	120,0	55,0	60,0	65,0	120,0	120,0	120,0	285,0

-47kg

1 Hudson Allegra	1994	USA	46,60	142,5	152,5	160,0	70,0	75,0	80,0	142,5	155,0	160,0	392,5
2 Huang Hui-Chuan	1996	TPE	46,20	125,0	140,0	145,0	80,0	85,0	87,5	155,0	155,0	167,5	380,0
3 Shlopko Tetyana	1996	UKR	46,90	140,0	147,5	155,0	80,0	85,0	87,5	140,0	150,0	150,0	372,5
4 Martin Jasmine	1993	PHI	46,20	122,5	132,5	140,0	60,0	65,0	65,0	145,0	157,5	157,5	345,0
5 Gerber Aleksandra	1995	RUS	46,90	125,0	135,0	140,0	75,0	80,0	82,5	120,0	132,5	132,5	335,0
6 Uemura Mayu	1997	JPN	46,80	85,0	95,0	102,5	45,0	50,0	55,0	90,0	100,0	107,5	245,0

-52kg

1 Hesthammer Karen	1994	NOR	51,70	170,0	177,5	185,0	100,0	102,5	105,0	155,0	162,5	167,5	450,0
2 Minami Ayasa	1993	JPN	50,70	132,5	140,0	150,0	87,5	95,0	100,0	110,0	117,5	125,0	352,5
3 Ito Sakiko	1996	JPN	51,20	105,0	115,0	125,0	50,0	55,0	62,5	115,0	125,0	127,5	305,0
— Engrenius Maria	1997	SWE	51,00	140,0	145,0	145,0	100,0	100,0	100,0	140,0	150,0	150,0	DSQ

-57kg

1 Johnson Kimberly	1994	USA	55,80	170,0	177,5	185,0	110,0	117,5	120,0	165,0	172,5	177,5	482,5
2 Lent Lauren	1997	USA	55,90	192,5	202,5	202,5	90,0	95,0	97,5	170,0	180,0	180,0	470,0
3 Gonchar Ganna	1993	UKR	56,90	160,0	170,0	180,0	120,0	130,5	132,5	140,0	145,0	150,0	462,5
4 Borisova Elena	1994	RUS	56,50	177,5	185,0	190,0	97,5	102,5	107,5	172,5	182,5	182,5	460,0
5 Sjoel Lena	1997	NOR	56,70	167,5	175,0	182,5	102,5	102,5	107,5	170,0	177,5	177,5	447,5
6 Iskibaeva Galina	1993	RUS	55,90	157,5	157,5	167,5	95,0	95,0	102,5	155,0	165,0	172,5	435,0
7 Bruvere Milda	1994	LTU	56,00	167,5	177,5	182,5	75,0	82,5	87,5	145,0	152,5	157,5	402,5
8 Kobayashi Nobuyo	1997	JPN	56,40	145,0	150,0	155,0	77,5	82,5	87,5	115,0	125,0	130,0	372,5

-63kg

1 Engmark Erle	1993	NOR	62,90	177,5	182,5	187,5	120,0	125,0	130,0	190,0	195,0	200,0	517,5
2 Grebenkova Daria	1994	RUS	62,50	180,0	187,5	192,5	110,0	117,5	120,0	175,0	182,5	187,5	495,0
3 Vilmar Matilda	1996	SWE	62,20	177,5	185,0	190,0	110,0	117,5	117,5	150,0	160,0	165,0	472,5
4 Terahara Maruru	1993	JPN	62,20	180,0	190,0	192,5	100,0	105,0	110,0	155,0	165,0	172,5	457,5
5 Tsutsumi Ayaka	1995	JPN	60,20	160,0	167,5	175,0	60,0	70,0	80,0	140,0	147,5	155,0	392,5
— Radova Michaela	1994	CZE	60,20	140,0	140,0	140,0	95,0	95,0	100,0	130,0	140,0	140,0	DSQ
— Hansen Ingvild	1994	NOR	62,50	165,0	170,0	175,0	97,5	100,0	100,0	155,0	160,0	167,5	DSQ

-72kg

1 Kapstad Silvia	1996	NOR	71,90	205,0	215,0	222,5	125,0	130,0	130,0	190,0	197,5	202,5	550,0
2 Lowe Jessika	1996	SWE	71,20	175,0	182,5	190,0	117,5	120,0	122,5	185,0	190,0	197,5	510,0
3 Young Dakota	1996	USA	71,70	197,5	207,5	212,5	105,0	107,5	112,5	180,0	185,0	195,0	510,0
4 Erokhina Mariia	1995	RUS	70,80	175,0	185,0	195,0	115,0	115,0	115,0	175,0	187,5	190,0	497,5
5 Miller Carley	1996	USA	70,40	192,5	195,0	200,0	100,0	100,0	105,0	180,0	190,0	195,0	490,0
6 Hansen Majken	1996	DEN	71,00	185,0	192,5	197,5	95,0	95,0	95,0	160,0	170,0	175,0	462,5
7 Madoba Kazusa	1996	JPN	64,80	185,0	185,0	195,0	100,0	100,0	105,0	160,0	165,0	165,0	450,0

-84kg

1 Kielsen Birgitte	1996	NOR	82,00	225,0	232,5	240,0	147,5	155,0	160,0	180,0	187,5	192,5	592,5
2 Elovikova Angelina	1993	RUS	74,40	205,0	215,0	225,0	115,0	125,0	132,5	185,0	195,0	202,5	552,5
3 Davis Sarah	1995	USA	82,50	195,0	197,5	202,5	132,5	137,5	142,5	190,0	197,5	202,5	547,5
4 McKenzie Claire	1994	USA	81,30	200,0	207,5	217,5	120,0	130,0	130,0	175,0	185,0	192,5	530,0
5 Shashkova Darya	1997	UKR	78,40	175,0	187,5	192,5	110,0	120,0	127,5	140,0	150,0	160,0	480,0

84+kg

1 Pavlova Anna	1996	RUS	88,70	200,0	210,0	217,5	140,0	142,5	145,0	200,0	200,0	202,5	562,5
2 Okatenko Xeniya	1994	KAZ	103,00	220,0	227,5	227,5	140,0	147,5	155,0	180,0	187,5	187,5	562,5
3 Lovas Monika	1994	HUN	112,50	185,0	195,0	207,5	125,0	145,0	150,0	170,0	185,0	185,0	527,5

Nation (points)

1. Norway	54	[12+12+12+12+6]	2713,59 w.pt.
2. U.S.America	53	[12+12+12+9+8]	2615,82 w.pts.
3. Russia	46	[12+9+9+9+7]	2500,95 w.pts.
4. Japan	35	[9+8+7+6+5]	2095,93 w.pts.
5. Ukraine	22	[8+8+6]	1483,47 w.pts.
6. Sweden	17	[9+8]	1013,91 w.pts.

Best Lifters of Juniors

Rnk	Lifter	Nation
1	Johnson Kimberly	U.S.America
2	Hesthammer Karei	Norway
3	Engmark Erle	Norway